

ときがわ町水道審議会会議録

会議の名称	平成 29 年度第 1 回ときがわ町水道審議会
主な議題	委員の委嘱書交付 会長及び副会長の選出 ときがわ町水道事業の現状説明
開催日時	平成 29 年 10 月 19 日 (木) 開始 13 時 30 分 終了 14 時 34 分
開催場所	都幾川公民館 2 階会議室
会議録の公開（非公開・一部非公開）とその理由	公開
出席者	前田 栄委員、野原和夫委員、峯岸正明委員、前田郁子委員、桐ケ谷富夫委員、戸口隆雄委員（岡本 忠委員 1 名欠席）  関口定男町長、水道課内室睦夫課長、伊得正巳主幹、小林大介主査、新井裕文主査
審議等内容又は概要	委員の委嘱書交付 ・ 6 人の委員に委嘱書交付 ・ 関口定男町長あいさつ ・ 自己紹介（委員 6 名及び事務局 4 名） （終了後、町長退席）
	議事 1 協議事項 会長及び副会長の選出 協議結果 互選により次のとおり決定する。 会 長 桐ケ谷富夫委員 副会長 前田 栄委員 協議の概要 司会（伊得主幹）が臨時議長として進行し、委員の互選により決定する。 (桐ケ谷会長に議長交代)

	<p>議事 2 ときがわ町水道事業の現状について 議長 桐ヶ谷富夫会長</p>
	<p>説明者 事務局 説明の概要 資料No.1～3によりときがわ町水道事業の概要について事務局が説明</p> <p>①ときがわ町の概要について ②事業認可の沿革について ③給水人口と有収水量の推移について ④水道施設の概要について ⑤経営状況の概要について ⑥実施体制について ⑦ときがわ町水道ビジョンについて</p> <p>質 疑</p> <p>委 員 事務局 石綿管を更新する際の管種は何を使っているか。 昨年度までは鋳鉄管を使用してきた。今年度の更新工事には、非常に柔軟性のある管であり採用している事業者も多い（配水用）ポリエチレン管を使用する。</p> <p>委 員 事務局 更新するポリエチレン管の口径は。 今年度更新する箇所は 100 mm。</p> <p>委 員 事務局 更新計画を立てていく際に管種についても検討することになるが、法定耐用年数を考慮し将来的に負担がかからない選択をすることが良いと思う。管種も様々なものが進歩しており、安くて良い物を使うよう計画した方が良いと思う。</p> <p>事務局 現在残り 2 キロメートルの石綿管については口径 100 mm が中心である。また T S ビニール管については口径 75 mm が中心であり、今後更新予定の 75 mm から 100 mm の管をポリエチレン管に更新していく方針である。</p> <p>委 員 自治体ごとで採用する管種が異なるのはどのような理由か。</p> <p>委 員 鳩山町においては口径 200 mm までは配水用ポリエチレン管、それ以上の口径の管についてはダクタイル鋳鉄管を使用すると決めていた。給水管もポリエチレン管を使用することになっており小口径の管については一体的に配水用ポリエチレン管を使うこととし、計画を立てていた。メーカーが耐用年数 100 年と言っているものもあり、</p>

	<p>法定耐用年数 60 年ものを使用するより、今後の更新する費用を抑えることができる。事業体に合った効率の良い管を検討した結果、鳩山町では配水用ポリエチレン管を使用することとなった経緯がある。事業体ごとに、費用面、耐久性などを考慮し選択していくことになると思う。</p> <p>事務局 今年度より口径 150 mmまでの管はポリエチレン管を、口径 200 mm以上の管はダクタイル鋳鉄管を使用していくこととしている。</p> <p>委員 管の選定基準、耐用年数は。</p> <p>委員 日本水道協会で認めているものから選択。配水管の法定耐用年数は 60 年と定められているが、事業体がそこをどのように考えるか。60 年ごとに更新するのか、メーカーが耐用年数 100 年と言っているのであれば 100 年で更新するかによって、更新費用が変わってくる。</p> <p>議長 人口推計により人口が減少していくような地域であれば管径が細くなる可能性もある。材質や人口等様々な条件を加味していき、長い期間での費用が最も安価になるようアセットマネジメントを各自治体で作成している。</p> <p>事務局 様々な面でコストを下げるよう、また長持ちするような物を検討していきたい。</p> <p>事務局 ときがわ町水道事業で抱えている水道管や浄水場等施設などの資産の洗い出しを精度を上げて行おうとしている。施設の規模の縮小や管径の縮小などダウンサイジングや施設の廃止についても計画の中で示していきたい。</p> <p>委員 ときがわ町の水道における石綿管の問題は以前からあった。他の自治体はすでに終わっているのに、計画を早く実行に移さず延ばしてきて現状に至っている。町の人口増加対策を進めていく中で水道事業もきちんとやることを位置づけるべきである。一番心配しているのはこの事業が成功した際に有収率がどこまで上がるかである。</p> <p>事務局 石綿管の更新は平成 10 年度から毎年行っており、近年においては未更新箇所が点在しており更新する距離が短くなっているが、毎年実施している。人口が減少することにより収益も減少し、1 本の配水管から給水する数が減ることでも有収率は下がってしまう。今後詳細な説明をしていく中でご検討いただきたい。</p>
	<p>議事 3 その他</p>

	<p>説明者 事務局</p> <p>説明の概要 事務局から次回開催日時について、平成30年6月頃で調整を提示した。 (全員了承)</p>
	<p>閉会 前田 栄副会長閉会あいさつ</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・水道審議会委員名簿</li> <li>・参考資料 (ときがわ町水道審議会条例、ときがわ町水道審議会について)</li> <li>・資料No.1 ときがわ町水道事業概要</li> <li>・資料No.2 ときがわ町水道事業の概要</li> <li>・資料No.3 ときがわ町水道ビジョン (平成20年8月)</li> </ul>